

No.60

2019. 2



30周年記念号



中部横断自動車道(八千穂高原IC～佐久南IC)2018年4月 開通

佐久臼田IC付近

一般社団法人長野県建築士会は、2019年4月1日より
公益社団法人長野県建築士会へと移行します。

佐久支部は、更に地域・社会に貢献し信頼される団体を
目指します。

中部横断自動車道(八千穂高原 IC～佐久南 IC)



浅間山を望む

目次

- ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 佐久支部の紹介・・・・・・・・・・・・ 8
- 青年女性委員会の紹介・・・・・・・・ 16
- 総務企画委員会の紹介・・・・・・・・ 38
- 教育事業委員会の紹介・・・・・・・・ 40
- 社会貢献委員会の紹介・・・・・・・・ 46
- 情報広報委員会の紹介・・・・・・・・ 48
- 交流委員会の紹介・・・・・・・・・・・・ 54
- 入会者の一言・・・・・・・・・・・・・・ 56
- 賛助会員の紹介・・・・・・・・・・・・ 59



八ヶ岳を望む

ご挨拶

(一社) 長野県建築士会佐久支部

支部長 臼田 幸夫



一般社団法人長野県建築士会佐久支部の創立30周年記念の年に当たり、支部を代表しご挨拶を申し上げます。

平成元年に旧佐久支部と旧南佐久支部が統合・合併し新生佐久支部として発足しました。

当時の両支部役員の皆様の大変なご尽力により、それぞれの支部の歴史と伝統を見事に結びつけ、これを支え更に発展をして来られた諸先輩方に心より敬意を表します。

10年前には創立20周年記念事業として当時の赤尾支部長の下、約2年間に及ぶ準備期間を経て素晴らしい記念式典と記念誌の発行その他の諸行事により記憶と共に記念に残る大事業が開催されました。それから現在までの10年間を振り返って見ると、組織にとって大きな変革の時期にありました。社団法人長野県建築士会が公益社団法人或いは一般社団法人の何れかの選択を迫られました。佐久支部でも様々な意見はありましたが結論として将来は公益社団法人を目指すとしつつ一般社団法人を選択し、それに伴い本会与支部の会計統合が行われたことは、支部活動にも少なからず影響がありました。その公益社団法人へ来年度より移行するための承認手続きが進められている所です。公益か一般にかかわらず個人の資格者集団である建築士会として社会・地域への貢献は使命だと考えます。各市町村との防災協定も進み、空き家対策などに関する住宅相談の実施、或いは各種協議会への会員の推薦など建築士会と行政への関わりが増え、その知名度も上がってきています。

佐久支部は長野県下15支部の中でもその活動量はトップクラスであると自負しています。中でも青年女性委員会

の活躍は佐久支部の名を県下のみならず全国に轟かせました。平成21年に「長野県地域発元気づくり支援金事業」の採択を受けて開催し現在も続く国道142号線佐久南IC周辺の景観活動をはじめ、その後も佐久穂町のまちなみ再発見の活動それに続く小諸市のまちづくりの実践活動、その小諸市の活動から派生した氷区にある風穴の保存活動、そして今年度は御代田フットパス事業と何れも元気づくり支援金事業として5回に渡り採択を受けた活動でした。青年建築士の柔軟な目線と瞬発力で地域の方々、行政とも手を取り合って事業が展開できた事は支部の将来にとっては何よりも明るい材料だと思います。又、社会貢献委員会の「親子で作ろうウッドクラフト」もこの10年間継続をしている佐久支部の目玉事業です。継続は力です。この事業の材料作りなどを陰で支えて頂いた工務店経営の会員の皆様にも心より感謝を申し上げる次第です。

建築士会にかかわらず他の団体でも会員の減少、特に高齢化は深刻な問題となっています。10年前416名の会員が現在は330名程度となり約2割も減少してしまいました。減少に歯止めをかけることは容易なことではありませんが、そうした中でも何が出来るのかを今後は探っていくかなければならないと思います。すでに他支部では合併の協議が進んでいますが、長野県建築士会全体で考えた時、支部間の合併・統合は避けては通れないのかもしれませんが、これから10年先にどのような形になっているのか分かりませんが、これまで積み上げてきた佐久支部の歴史と伝統とそして実績を更に継続して行けるよう微力ながら尽力する所存です。

結びに、今回の事業を企画、運営されました実行委員会の皆様に心より感謝を申し上げ会員各位に置かれましてはご健勝でさらなるご活躍をお祈り申し上げまして30周年記念のご挨拶と致します。



30周年によせて

長野県佐久建設事務所

建築課長 **金子 裕**



一般社団法人長野県建築士会佐久支部が30周年を迎えられましたことに心からお喜びを申し上げます。

平成元年に、長野県南佐久地方事務所と北佐久地方事務所

が統合された機を同じにして旧南佐久支部と佐久支部を統合し、佐久支部を発足されるというご英断をされてから、30年の経過をみました。この間、支部の発展にご尽力されました支部長をはじめ役員の皆様、これを支えてくださいました会員の皆様に敬意を表します。

また、平素は、長野県の建築住宅行政の推進にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。平成29年には、地域の課題は地域で解決する仕組みを整えるため、地方事務所を地域振興局に改組し、当建築課が建設事務所へ移管するにあたり、ご理解とご支援を賜り重ねて御礼申し上げます。

この30年の間に、佐久地域では高速交通網の整備がされ、信州の東の玄関口として発展してまいりました。しかし、人口は平成12年をピークに減少に転じており、空き家が増加することにより、その対策が地域の課題となってきました。そこで県では、空き家対策地域連絡会や空き家対策支援協議会を設置しまして、貴支部にもご参画していただき、空き家相談窓口を開設して住民からの相談に対応されるなど、課題の解決に貢献されてきました。

また、全国各地で大地震が発生し、県内でも長野県北部地震や神城断層地震などが発生して多くの建物が被災しました。その際には、貴支部からも被災建築物応急危険度判定や住宅相談に多くの建築士を派遣されたほか、管内市町村と災害時における避難施設等の応急危険度判定に関する協定を締結し、また、耐震診断を実施し耐震改修を推進するなど、住民の安心・安全の確保にご尽力をいただきました。

長野県では、自らの知恵と工夫により自主的、主体的に取り組む事業に「地域発元気づくり支援金」を交付して支援していますが、貴支部におかれましても、当支援金を活用して、小諸市や佐久穂町での景観保全・活性化事業などの地域資源を活用し地域に根差した活動をされてきました。この活動については日本建築士会連合会でも高く評価されており、地域の活性化に貢献されてきましたことあらためて敬意を表します。

人口減少にともなう社会構造の変化のなか、建築をとりまく環境は厳しさを増していますが、県では、住んでよし、訪れてよし、の佐久地域をめざしています。そのためには、地域に密着して活動をされている貴支部のお力添えが欠かせないとともに、住まいづくり・まちづくりの英知をお持ちの貴支部に期待がされています。当地域の発展のためにも、今後とも一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、長野県建築士会佐久支部の益々のご発展と、会員の皆様の一層のご活躍とご健勝をご祈念申し上げましてお祝いのごあいさついたします。



更なる飛躍を

(一社) 長野県建築士会佐久支部

2013～2016 年度支部長 荻原 白



『花も実もそして力もある』佐久支部創立30周年おめでとうございます。

平成元年、旧佐久支部と旧南佐久支部が統合し総会員数521名で新生佐久支部が発足しました。発足当初から

両支部先輩方のご努力の賜物で、今日まで活発な支部活動ができる環境を整えて頂きました事に深く感謝申し上げます。

30年前と現在では私共建築士会を取り巻く環境も大きく変化し、昭和27年長野県建築士会設立時は社団法人でしたが、平成20年12月に新公益法人制度が施行され平成23年度から支部と本会の会計統合を行い、長い議論の末平成25年4月から一般社団法人としてスタートしましたが、今年の総会では公益社団法人へ移行するための定款の改正について承認を頂き、平成31年4月1日の移行を目指して幅広い活動を展開しております。

建築士会の活動は、応急危険度判定や市町村との避難所の安全確認協定、ヘリテージマネージャーによる歴史的建造物を核としたまちづくり、景観に対する調査アドバイス、住宅相談・空き家相談、省エネに関する講習、信州木造塾の開催、既存住宅状況調査技術者養成講座、景観アドバイザー養成講座等々その活動は地域社会に大きく期待を寄せられております。特に将来の長野県建築士会を担っていく青年・女性委員会の各支部実践活動では佐久支部青年・女性委員会の実践活動が全県/全国を牽引して、ここ数年連続して長野県建築士会が全国大会や関プロ大会で最優秀賞を受賞しその活動を全国に発信しております。

地域の皆さまとの交流連携を通してより良い郷土を創

る事、これら全ての活動は社会貢献をする長野県建築士会が目指す所です。平成31年4月1日の公益社団法人移行については11月開催予定の県審査会に向けて着々と公益認定申請準備を進めております。

その反面、長野県建築士会会員の減少傾向は深刻な問題と成っており会員増強は大きな課題です。昭和58年4月の4919名が最多会員数でしたが、その後減少が続き平成30年4月では2527名となり、佐久支部では平成6年4月の579名が最多で本年7月末現在では333名と成っております。情報化時代で全ての情報がPC等から得られる時代と成っていますが、私共は多くの仲間と生で接して自分に無いモノを発見し建築士として技量を磨きそれを仕事に活かし、更に地域社会に活かす事が求められる姿が建築士会ではないでしょうか。是非会員増強にお力をお貸し頂けますようお願いいたします。

ここで創立30周年とは全く関係のない記述をお許してください。今年の7月初めに私の長年の夢が叶い、コルビュジェの作品を観てきました。パリ郊外のサヴォア邸、パリ市内のラ・ロッシュ邸と自邸を外部/内部しっかり観させて頂きコルビュジェ空間を堪能でき幸せでした。現在それらの建物はコルビュジェ財団が管理運営している為観ることができます

初期のラ・ロッシュ邸は竣工後93年、サヴォア邸は竣工後87年。他にパリ中心部にある外観だけ見学したアパートメントは未だに使われております。夫々の建物は個を主張せず地域の景観と調和し修復し使い続ける建築文化に敬服しました。

建築士会佐久支部が更に地域社会から求められ期待される様に会員皆で頑張るその成果として大きな《花》を咲かせ続けたらどんなに素晴らしい事かと強く思っております。

佐久支部会員の皆さま、これから引き続き《花も実もそして力もある》佐久支部にして行きましょう。



ご挨拶

(一社)長野県建築士会佐久支部

2009～2012 年度支部長 **重田 元一**



佐久支部の皆様お元気ですか、ご無沙汰しています。原稿の依頼が来た時から、もう10年もたつのかなと思いました。

20周年の頃、私も佐久支部の副支部長

でしたので、記念式典やら蓼科高等学校ジャズクラブへのお願いやら、又藤森照信先生が急にこられなくなって、建築とはあまりなじみの薄い料理研究家の山本麗子先生の講演に変わったりした事が、昨日の事の様思い出されてきました。あの頃は今と違って会費も各支部統一されていませんでしたし、活動は佐久支部が15支部の中で1番だったと思います。そんな中での20周年事業でしたので、お金もかかったと思います。今思うと大変な事業をやったなと思います。あの時の皆さんの顔今でもはっきり覚えています。その後私は支部長を4年務めさせて戴き、その後は本会の総務情報委員長を2期務め、現在はシニア特別委員会に入っています。

良い機会ですので、この特別委員会の事を説明したいと思います。委員は、委員長以下8名であり全員で9名です。何をやっているのかというと、高齢会員の退会の遅延と制御のために必要な活動と提言、又サポート店の拡充等です。簡単に言うと、65歳以上の会員が辞めないでいてもらうにはどういうことをすれば良いかです。ちなみに昨年は春6月に上高地散策を行い、秋9月には木曾路を歩きました。両方共会員以

外も含めて40名位の申込参加がありました。今後も続けていくのか、他の事を考えるのか、今後の委員会で決まります。何れにしましてもシニアの会員が対象ですが、若い会員もどんどん参加してもらえれば、特別委員会ではなく、各支部で出来る委員会になるといいですね。

本題に戻りますが、30周年おめでとうございます。今まであつという間の10年でしたね。考え方と行動力は、どこの支部より優れていると思っています。支部の外から見るとそれが一番よくわかります。何と言っても、支部とは別に各地域にグループがあり、又そのグループがそれぞれ活動をしている事です。他の支部の人には良く言われます、これこそが退会の抑止になり防止になっている事を。事務職員も本会雇用となり、会費も統一となった今、臼田支部長さんを中心に特色ある佐久支部を構成し、これから先何十周年も続く事を信じ、又お願いをして私のまとまらない挨拶とします。支部の皆さん、記念事業大変だと思いますが宜しくお願い致します。



佐久支部の紹介

建築士ネットワーク・佐久の記録

佐久支部 第5回会員大会

『はばたき・そして未来へ・・・』

2009年10月31日千曲パークホテルにて

- 研修会：「森へのいざない」
- 講師：NPO 法人信州そまびとクラブ理事長
工藤孝市先生



森への関心がさらに深まる内容でした。

- 文化講演会：演題「藤森流建築の作り方」
- 講師：東京大学生産技術研究所教授
藤森照信先生



大変参考勉強になった事はもちろんですが、とても楽しく腹の底から笑いました。

建築士ネットワーク・佐久2010

『新たな出会いと絆 くきずな』

2010年10月30日千曲パークホテルにて

- 技術研修会：「木と鉄と日本文化」
- 講師：文化庁認定上級技術者
永川強先生

究極の美として世界の最高建築といえるのは伊勢神宮とピラミッドではないかと思っています。なぜそれらに魅せられるかという、虚飾がなく本質美を表しているからです。

と言うお話が印象的でした。

- 文化講演会：演題「未来に残したい文化的風景」
- 講師：フリーパーソナリティー
武田徹先生

佐久には「浅間山」という風景があるのだから、大切にしましょう。文明は古くなると、手を入れてもどうしようもないが、文化は手さえ入れていけば、古くなるほどよくなるそうです。



建築士ネットワーク・佐久2011

『再生 ころの未来へ・・・』

2011年10月30日千曲パークホテルにて

- 技術研修会：「新エネルギーの未来～小水力発電」
- 講師：(社)山梨県建築士会 山根健司先生



今後のエネルギーのあり方について建築士として何かをしなければならぬと考えさせられました。

- 文化講演会：演題「我武者羅応援団に学ぶ 人生の生き方」

- 講師：上田情報ビジネス専門学校副校長 比田井和孝先



エネルギーを頂きました。子供にも聞かせたいと思いました。

建築士ネットワーク・佐久2012

『先人に学ぶ・匠の技』

2012年10月28日佐久グランドホテルにて

- 技術研修会：「武士の住まいと士官官舎 ～そして現代へ～」

- 講師：文化庁認定上級技術者 永川強先生

今回は「住まい」をテーマに講義していただきました。

武士の住まいから現在への延長線のなかで建築を考えた時、何らかのヒントがあります。

- 文化講演会：演題「民家の今後はどうあるべきか」

- 講師：(株)降幡建築設計事務所 所長 降幡廣信先生

先生は当年83歳。

村野藤吾さんの歳を超える94歳までは現役を貫くことを目標にされている。



建築士ネットワーク・佐久2013 『佐久らしさ』

2013年10月12日佐久グランドホテルにて

- パネルディスカッション：「まちづくりと景観」
- コーディネーター：武者忠彦氏
- パネラー：黒澤大陸氏 出澤潔氏 井出正臣氏



『景観教育の必要性』『維持管理の難しさ』『事業の継続性』等々様々な課題が出され佐久穂のプロジェクトの今後の展開の参考になりました。



- 特別講演会：演題「みんなで創ろうしあわせ信州」
- 特別 講師：長野県知事 阿部守一氏



知事の目指す「美しい長野県」の構築に向けて、私たちは建築士の立場で、ご協力していければと思いました。



建築士ネットワーク・佐久2014

『人と人のつながり』

2014年10月12日佐久グランドホテルにて

- 文化講演会：演題「プラスにはたらく」
- 講師：松山三四六氏



今回の三四六さんの「プラスにはたらく」という演題。幸せを相手に与えたら必ず自分にプラスになって帰って来るといふこと。このネットワークのテーマでもある「人と人のつながり」といふ事にもつながると思いました。



建築士ネットワーク・佐久2016

『豊かな郷土を紡ぐ』

2016年10月29日ベルウインこもろにて

- 講演会：演題「建築家が考えるまちづくり」
- 講師：(株)レーモンド設計事務所 代表取締役 三浦敏伸氏



「日本は実にノーブルである。」初来日した時、日本を形容したレーモンドの言葉として、三浦氏が紹介して下さいました。



佐久支部の紹介

新年講演会の記録

2010年 新年講演会

2010年2月5日佐久ランドホテルにて

- 佐久地域景観講演会：演題「景観・まちを想う」
- 講師：TAK 建築・都市計画研究所 代表
柳澤孝彦氏

自身の作品については、まず敷地固有の自然や歴史的な軸を読み取ることに最も力を注ぐとのお話が印象的でした。



2012年 新年講演会

2012年2月3日佐久ランドホテルにて

- 新年講演会：演題「協働と交流のまちづくり」
- 講師：小布施町長 市村良三氏

素晴らしい町長と町民と企業が「協働と交流」出来る小布施町は素晴らしい町であると思った次第です。

2011年 新年講演会

2011年2月4日佐久ランドホテルにて

- 新年講演会：演題「街をどう人間化するか? ～情報の海に溺れないために～」
- 講師：ノンフィクション作家
吉岡忍氏

街を元気にするために具体的なヒントをたくさん与えていただいた刺激のある講演会でした。



2013年 新年講演会

2013年2月2日佐久グランドホテルにて

- 新年講演会：演題「軽井沢とまちづくり」
- 講師：軽井沢町長 藤巻進氏



「軽井沢は別荘地であり観光地ではない」しかし、別荘地を下支えしているのは観光業であるとし、より多くの人が集まるまちづくりを、多くの文化人や学者とともに画策していると、力説されました。



2014年 新年講演会

2014年2月3日佐久グランドホテルにて

- 新年講演会：演題「私達の〈まち〉を造る建築～美しい世界の〈まち並み〉と日本～」
- 講師：建築課 東大名誉教授 香山壽夫氏



「楽しい仕事は楽(らく)ではない。楽(らく)な仕事は楽しくない」という言葉が印象深かった。



2015年 新年講演会

2015年2月7日佐久グランドホテルにて

- 新年講演会：演題「明日のアジアを担う
子供達のために」
- 講師：インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢
代表理事 小林りん氏



りんさんのこの取り組みが、日本の学校の教育を変える風穴をあけたことは、間違いないと確信しました。



2016年 新年講演会

2016年2月10日佐久グランドホテルにて

- 新年講演会：演題「5つの質問に答えます」
- 講師：建築課 東大名誉教授
内藤廣氏



「いのちと建築」「人間と建築」たくさんのことを考えさせられました。



2017年 新年講演会

2017年2月2日佐久ランドホテルにて

- 新年講演会：演題「地域再生と建築士の役割」
- 講師：信州大学経法学部 准教授
武者忠彦氏



いままで建築士は点としての建築デザインを行ってきたが、面としてのまちづくりに関わりコミュニティをデザインすることで建築士の職能を活かせる可能性がたくさんあるとのことでした。



2018年 新年講演会

2018年2月9日佐久ランドホテルにて

- 新年講演会：演題「朗読の森の夢・プロジェクト」
- 講師：軽井沢朗読館 館長
青木裕子氏



青木さんの声と語りが耳に心地よく、思わず聞き入ってしまいました。



青年女性委員会の紹介

みんなで「ねむの木」植えロード

平成 21 年～ 佐久南インター開通に伴う

地域実践事業

星野武光

はじめ

青年建築士として何か出来ることはあるのだろうか、何か求められていることはあるのだろうか、と模索している時に佐久地方事務所の建築課の小林建吾課長から長野県「地域発 元気づくり支援金」を教えて頂きこの事業が始まった。

支援金・補助金など申請しての活動などしたことがなかったので、不安な気持ちで始めた。しかし、事業を發すとはどういう事なのか、その意義、目的を立て道筋があること、また始まりから事業の継続性を持てるようにすることの大切さなどをご教授頂き、なんとか約 10 日ほどで申請書を作成し期日までにギリギリ提出した。その後は支援金選考のための面接などを経て平成 22 年度の「地域発 元気づくり支援金」活用事業として事業名『みんなで「ねむの木」植えロード』、団体名「長野県建築士会佐久支部」として認定され春から活動が始まっていった。

この事業は行政の方々、地域の方々、地域の小学校、協力企業の多くの皆さまのご支援ご協力によって始まり、今も継続される「佐久南インター景観をつくる会」のもと花植え、ねむの木の手入れを継続している。関係する皆さまに心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。



概要

●日時（植樹）

- ・平成 22 年 11 月 1 日（月）
8 時 50 分～12 時 5 分 [桜井地区]
- ・平成 22 年 14 日（日）
10 時～12 時 [岸野地区]

●場 所

- ・佐久市桜井・岸野地区
国道 142 号線沿い

●活動内容

佐久南インターチェンジ周辺において、泉・岸野小学校児童と桜井地区・岸野地区の地元住民及び建築士会の協働で、国道 142 号線に現存する街路樹「ねむの木」を植樹。延伸する事で、花とみどりの溢れるまちづくりに寄与し、景観に対する関心の向上を目的とする。また、建築士がデザイン・作成した景観に配慮した活動表示看板を設置。

●PR ポイント

植樹に際して、予め泉・岸野小学校において、地域・風土や景観の重要性に対する理解を深める授業を行う。植樹は、植樹後も樹木や地域への愛着を継続させるためアダプトシステム（県の維持管理に向けた協定）の統括に向けて準備し、住民参加により行う。これにより、この事業を行う建築士会の存在価値や地域環境の重要性・住民参加の意義を表現する。

●事業参加者数（当初見込）

- ・250人（小学生200名・士会会員50名）

●事業参加者

- ・314人（小学生191名・保護者、教員、地域方々45名、建築士会会員78名）

●景観授業

- ・平成22年10月25日（月）8時50分～10時25分 佐久市立泉小学校 [5・6年生]
- ・平成22年10月27日（月）8時50分～10時25分 佐久市立岸野小学校 [5・6年生]

●植樹

- ・平成22年11月1日（月）8時50分～12時5分 佐久市立泉小学校 [5・6年生]
- ・平成22年11月14日（日）10時00分～12時00分 佐久市立岸野小学校 [5・6年生]

●ねむの木

- ・泉地区 50本、岸野地区 26本

●総事業費

- ・2,803,235円（うち支援金：2,505,000円）

今ある地域の財産を誇りに

今では多くなったが10年前では同一の市に高速道路インターチェンジが複数あるところは珍しかった。しかし日本の新しいインター周辺という大きな看板と、どこでもよく知られたチェーン店が横並びする道路景色である。新しい佐久南インターチェンジは国道142号線に接続している。ここは両側に田んぼが並ぶ田園風景であり、遠くには浅間山、蓼科山と美しい山々を望み観ることができ四季を楽しめる景観をもつ。そこで新たなインターの開通を機に将来、全く違った環境、風景になってしまうことは望

まず、地域の美しい景観という今ある当たり前の財産を大切にしなければいけない。その景観があることが地域の誇りとして子供たちに培われ、都市圏ではなくこの地の魅力によって定住やUターンにつながってほしい。

なぜ“ねむの木”なのか？

では新しいインターが開通して地域の人が、また遠くから佐久に来る利用する人たちはどのような景観を望むのだろうか、私たち建築士としてはどのような役割りを果たせるのかと、事業の計画時に考えた。それで支援金の申請時の名称は「(仮称)佐久南インターチェンジ花・みどりの景観～植樹事業」とし、佐久地域のより良い景観育成のために地域に働きかけ、道路両脇に花やみどりがいっぱい植えられ、地域に親しみや愛着が持てるようにとした。花、木を植えるとなると国道を管理している佐久建設事務所に許可を得なければならない。それで、県



建築課の小林課長にも同行をお願いし、無事に依頼と協議を順調に進めることができました。植樹位置はインター開通時に完成している国道の植樹マスに決定し、樹種の選定については建築士会で進めると決まった。そこから青年女性委員会で樹種の検討に入り、まずは地域の方々のご意向が重要ではないかということで区長会での本事業の内容説明、その後に桜井地区と下平地区の「地域住民説明会」を開き様々なご意見を頂きました。事業にはご賛同頂きましたが樹種の選定については、やはり建築士会に任せるとのことでした。そこで建築士として何が適しているのか検討するにあたり、地域の景観は地元に住む人たちの記憶に残るものとなるので、すでに東西に141号線（中込・野沢の佐久大橋沿い）と、142号線（岸野地域）に植えられていた「ねむの木」とした。



初の景観授業

景観整備機構により学校での景観授業のための資料は用意されていたが、県内で景観授業が

実施されたのはこの授業が初めてであった。街をキレイにするための花植え、ゴミ拾いを地域の子供たちとしているところが多いが、その作業をする意義についての授業はされていなかった。大人でも説明するのが難しい「景観」とは、木を植え、花を植えて、手入れをすることが地域に住むみんなの景観をつくっていることを説明した。景観は長い時間を掛けつくられるが一瞬にして壊されてしまう事があり、それは地域に住むみんなが大事にしないと美しく綺麗にはならないことを伝えた。これらの事を子供たち



に実際の授業で教えるとなつて思ひのほか大変であった。しかし、青年らしい工夫があるので是非、多くの方に受講してほしい。

景観を考えた看板

支援金の事業の最後として表示看板の設置があった。景観を考えたデザインを青年女性委員会で話し合い、ねむの木に並木に溶け込むデザインと色合いが良いのではないかと、などの意見からねむの木をイメージしたデザインに決定した。青年委員が構造も含め設計し、けやきの板を使用して伝統大工の青年委員が製作することになった。看板文字にもこだわり、カッティングシートを使ったサンドブラストによる彫り込み文字にウレタン塗料を入れ込むものにした。専門の業者に依頼するのではなく、全て青年委員の関わる場所となり青年らしさのある景観を考えたデザイン看板が設置できた。



アダプト事業「佐久南インター景観をつくる会」

国道沿いの植樹マス 2 つに「ねむの木」2 本を植樹し、「空きマス」1 つが間になるようにした。ねむの木の間に遠景が見えるようにするため、空きマスに毎年春の時期に花を植えて楽しみながら管理するためである。ねむの木 2 本と空きマス 1 つが 1 セット (3 マス) とし、二つの地域で 50 組が参加する景観をつくり、維持管理活動をする「佐久南インター景観をつくる会」を発足。建築士会が中心となり泉小学校 6 年生、地域の方、地域企業による地域参加型の道路里親活動であるアダプトシステムである。地域住民にインター周辺の景観策定に関心を持ってもらい、景観を自分たちでつくれる地域にして、自然豊かな田園風景を守ることが目的である。会としては春に景観授業と草取り・花植え、秋にはねむの木の剪定と草取り片づけが全体作業となり、水くれ・草取りなどは適宜各々が行うとして継続している。

今後の取組み

ねむの木を植樹する時に小学生の名前の入ったプレートを記念として取付けた。植樹をしてこの春で 10 年となり植樹をした子供たちは大人となり 21、22 歳になっている。時の経つのは早いのかと感じながらも、ここに彼らと植えた木が成長し綺麗な花を咲かせ美しい田園風景をつくっていることは感慨深い。今後は植樹した彼らと後輩である小学生、そして地域の方々と建築士の交流のある楽しいイベントを開催できたらうれしい。自分の植えた木のある、暑いなか汗をかいて草取りした道路があつて、懐かしく思い出いっぱいの美しい景観となつてほしい。



青年女性委員会 の紹介

佐久穂の活動 他

井出正臣

大学生の時、高校時代からの仲間とよく集まり趣味を楽しんでいた。六畳一間に七人以上が集まり雑魚寝。共通の趣味に関して語り、それが講じてそれぞれが原稿を持ち寄り「同人誌」のようなものを作ったのを覚えている。プリンターや印刷が今ほど充実していない時代に、製本テープや光沢紙を上手に使い、パソコンを駆使して編集してくれたのが、信州大学経法学部で准教授を務める武者忠彦氏である。

二十歳そこそこ、時間に余裕がある学生時代、自己満足の蓄積に快感を得ていた私たちの欲求は、「いつか本を出すこと」などという夢のようなものになっていた。しかしながら、漠然としながらもある程度遠くに置いた目標をどうやって実現していくか、それに関しては真剣に議論をした記憶はある。

父の死から会社を引き継ぎ、少しは落ち着き始めた三十歳の時に二級建築士の資格を取得。しかしながら、私は建築士免許の交付式に参加していない。多忙を理由に欠席したのを憶えているが、ある情報を得ていたため出席を見送ったという事実もある。それは、「建築士会にしつこく誘われる」というものだった。年間2万円が入る義務もない団体だし、免許はそこでなくても地方事務所でもらえる、という歳の近い先輩のアドバイスにより見送った。今思えば、建設会社に所属するその先輩の会社は士会の入会率が低い。会員増強への注力の仕方が誤ってい

るのは十五年間一定している。

ではその私がなぜ建築士会に入ったか？と言えば、佐久穂町の高橋三七人氏に誘われたからである。免許を取得して一年後、「建築士会に入らない」の一言に「分かりました」の一言である。交付式にも行かなかった私が入会した理由は簡単である。当時、高橋氏の設計する公共物件を施工していた。「設計と施工」の関係が「上と下」のように捉えていた当時の私にしてみれば当然のこと。団体にとっての幸か不幸かは、この時の高橋氏の声掛けから始まった。

入会して間もなく、平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震の住宅相談ボランティアに参加してくれと高橋氏から要請があり、何も分からず支部の皆さんと現地に出向いたのが最初の活動である。応急危険度判定などももちろん知らず、何をすれば分からない中で、共に現地へ赴いた当時の青年委員長である白鳥正司氏に「井出くんはいくつ？」と聞かれた。当然のことながら普通に答えると「じゃあ青年委員会だね」と言われたが、それが何なのかもサッパリ分からないまま青年委員会へと出席することとなった。

当面の間はソフトボール大会と支部のゴルフコンペへの出席、あとは支部行事の駐車場係などのお手伝いこそが青年委員会の勤めであると思ひ、支部の駒と嵩増しとしての役割も重要で

あることを学んだ時期でもあった。今思えば、入会して1年ほどでCPD・専攻建築士特別委員会の担当にもなり、今は懐かしい「ピアチェック」なども行った。入っていきなり何も分からず「あれもこれも」と頼まれて、佐久支部20周年特別委員会の委員をやってくれと言われたのでお断りしたのを思い出す。半ば怒りの感情で電話をしたのだが、今となっては、事務局の萩原佳代子氏には申し訳ないことをしたと反省している。

「はじめまして」に近い状態で組織の長になるなんていうことは、私の知る限りはあり得ない話である。平成21年度最初の青年委員会が佐久ホテルで開催されるときに、委員長に座していたのは、紛れもなくその「ない」状況で登場した星野武光氏であった。前委員長が方々に出向き頭を下げて回ったが断られ、快く委員長という仕事を受けてくれたのが星野委員長である。

当時は、私も含めて全青年委員に特別なやる気はなく、活動に対する意識など皆無に等しかった。星野委員長は若干上滑りしながらも、私たちに事を起こし変えていくこと、佐久という領域から飛び出す面白さを教えてくれた。星野委員長の勧めもあり、平成22年には聞いたこともなかった関ブロ青年協というものに参加してみようということになり、重田仁志氏、佐藤穂高氏、新津輝秋氏と茨城県水戸市まで足を運んだ。意味も分からず参加した私たち四人は青年の発表など聞くこともなく、会場前のファストフード店でひたすら夜を待ったのが懐かしい。

そんな中、星野委員長は佐久南インターチェ

ンジ周辺に、元気づくり支援金を利用して合歓の木を植える活動を平成22年に実施した。建築士としての景観形成活動を実践した情熱と行動力は、翌年以降の私の活動の規範となったことは間違いない。この時の星野氏を見たときに、委員長補佐としての確実なる副委員長の役割を意識し、以後の委員長選出に際して快く引き受け、自らの行いたいことを実施しようと思決した。

建築士会活動の主が佐久市に集中する中で、自分の生まれ育った南佐久郡佐久穂町で活動を行いたいという夢があった。江戸末期から昭和前期にかけて形成された建築物が佐久穂町には多く残り、光を当てた形跡がほとんどない。東日本大震災があり、生きる価値が問われる中でやりたい事を悔いなく行おうと考えていた頃である。青年委員長という立場と建築士会という団体を利用し、生まれ育った地元での活動を行おうと思決したのが平成24年1月である。

当初は建物の基礎調査と清掃ボランティア活動を行って、ガイドマップを作成、小規模なシ



ンポジウムを行って地域への意識付けを行おうと考えていた。支部長の許可を得て書類を独自



で作成し、元気づくり支援金の初期申請を行い、県のヒアリングを待った。その矢先、私の強引な依頼で佐久穂町にて講演を行うこととなった信州大学経済学部武者忠彦准教授が来町した際に、実は来年度こういった事をやろうと思って県に申請をしたという話をした。もちろん、食事の時の近況報告程度である。後日彼から連絡があり、その資料を見せてくれというので信大まで送ったところ、「一緒にやらせてもらえない？」という意外な返事が返ってきた。

地方事務所でのヒアリング当日、提出書類の変更もせず事業計画を説明する際に信州大学経済学部が協力してくれることとなった旨を伝えると、宿泊費と交通費の上乗せをして申請書類を再

提出するように指南された。私はそれが普通と解釈していたが、聞くところによると担当者が予算の上乗せをしてこいという話はまずないという。

事業実施が現実となった後に、武者准教授から連絡があり「どうせやるなら本にしなない？」





という囁き。調査記述の基本は大学が行うということであるし、自らがプロデュースした本を友人がディレクトしてくれるというのは夢のような話であった。何より「本を出す」というのは積年の夢、断る理由はなかった。こうして生まれたのが「信州まちなみスタディーズ佐久穂」である。

佐久穂での活動が一段した頃、武者准教授から連絡があり、「今度は小諸でやりたい」とのオファー。委員長を終えたのも束の間、重田新委員長以下青年委員会に頭を下げ、新津輝秋副委員長が書類を作成して実現させたのが小諸での活動である。小諸と言っても城下町という要素を抜くと突出した要素が少ないのに気付く。だからこそ小諸なのだが、そんな中で新たな調査領域を模索していたところ、「川向こうに良いところがあった」と武者准教授から聞き、向かった場所が氷地区であった。

私にとって建築士会活動は、自己を美化するものでもなく、功名心に駆られて行った訳でもない。どのように評価をされてもあまり興味がない。仕事を犠牲にして建築士会のために尽くしたわけでもなく、涙を流すほどの感動を味わったわけでもない。今は武者准教授とまちづくり法人を立ち上げ、立ち止まる暇もなく独自の活動を続けている。

この十年を振り返ると、星野武光という存在はやはり大きかった。改めて感謝したい。そして、建築士会佐久支部は武者忠彦准教授に最大の功労と賞賛を送らなければいけないことを忘れてはいけない。



青年女性委員会の紹介

小諸まちづくり活動

まちづくりの変革に挑む

～小諸のまちなみと市民の声～

鎌田 賢太郎

建築士によるまちづくり維新への挑戦

「あなたの住む町は、

今、どのような状態ですか？」

そんなアンケートの問いに「73%が衰退」と回答したまちが、今回私達が活動を行った小諸市でした。城下町として栄えた歴史を持つ小諸市は、今尚、過去の城下町的な「中心と郊外」という都市構造を引きずり、革新的な進展を生み出せずに閉塞感が漂っていました。市政はそんな現状を打破すべく、都市計画上の大事業を進め、都市機能（市庁舎/図書館/病院/文化施設）を衰退した中心市街地の一カ所へ集中させて、まちの効率化を計ろうという「コンパクトシティ構想」を進めていました。小諸の未来を左右する政策は、先の市長選の争点となり、「住民投票によって決定する」と政策を掲げた候補者が新市長に就任しましたが、住民投票は実現されることなく、小諸市はコンパクトシティ構想決行の道を推し進めている最中でした。

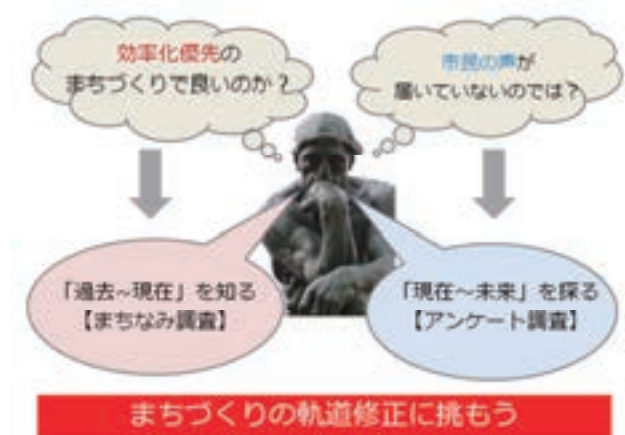
そんな小諸市の現状を見て、「経済効率優先のコンパクトシティ構想によって失われる価値あるモノ」そして「市民の声が反映されない都市計画の決行」に疑問を感じていた私達は、小諸市のまちづくりに一石を投じる活動に挑みました。しかし、それはコンパクトシティ構想を進める市政に水をさすような活動をするのではなく、より良いコンパクトシティにする為の活動を目指し、次の2つの時間軸へ着目しました。一つは＜過去～現在＞の小諸に根付く歴史と文化の継承。そしてもう一つは＜現在～未来＞新しい街への生まれ変わりに寄せる市民の声でした。

これは、建築士会の若手建築士が市政に疑問を抱き、受け継がれたまちなみ文化と、期待と不安を抱える市民の声を掘り起こすことで、まちづくりをより良い方向へ導こうと斬り込んだまちづくり維新と言っても過言ではない活動です。

まちづくり維新の2本柱

本活動は＜過去～現在＞を知り継承する為の「まちなみ調査」、そして＜現在～未来＞を探る為の「アンケート調査」を活動の2本柱とし、建築士会が信州大学経済学部との協働を得て活動を行いました。

小諸市民が日常生活を送る中に見落としている「まちなみ財産」を発掘すると共に、市民がどのような「まちの将来像」を描いているのかを明らかにする為、＜過去～現在～未来＞の時間軸を、2つの調査によって具現化するという調査活動に取り組み、その調査結果を市民に提示する事で、小諸のまちづくりの方向性を見出す事を目指しました。



それによって、小諸市の進めるコンパクトシティ構想を否定するのではなく、中心市街地の活性化のみによってもたらされるコンパクト化シティの影の部分为解决する事を目的とした活動です。

まちなみ調査 <過去～現在を知る>

まちなみ調査は、下記の5つのテーマを信州大学経済学部の学生の率直な目線で調査しました。よそ者となる大学生が、小諸を「歩いて・触れて・聴いて」実際に五感でまちを感じることで、日常生活に埋もれた効率という言葉では計れない価値を見出す調査です。



- ① 坂のまちとして知られる小諸のランドスケープ
- ② 歴史的まちなみ保存活動から生じる修景事業の矛盾
- ③ 衰退する商店街が抱える建築的な連棟問題
- ④ 先人の知恵より受け継がれる自然の冷蔵庫の謎
- ⑤ 受け継がれた植林を子供たちへ



後につながる「氷風穴」は、このまちなみ調査で発掘した埋もれた遺産の一つでした。



アンケート調査 <現在～未来を知る>

アンケート調査では、市長が断念した住民投票を、まちづくりアンケートという手法によって実施し、市民の声の汲み上げを試みました。質問内容は建築的観点から下記の5つをテーマとし13問にまとめて、行政や公共施設・そして建築士会の有志の手配りなどの多方面の協力を得て実施しました。



<アンケート調査の5つのテーマ>

- ①市民は小諸市の現状をどう感じているか？
- ②まちづくりに活用できる小諸の財産や魅力とは何か？
- ③歴史的建造物の保存の賛否、そして意義は何か？
- ④コンパクト構想による個人生活と市全域への影響は？
- ⑤これからのまちづくりへの要望や考え <自由回答>



アンケートは15歳以上の小諸市民38,100人を対象とし、862名より回答を得られました。アンケートの信憑性においては、対象市民数の2%超に該当し、統計学の観点からも十分な及第点に達しました。このデータ解析においては、協働体制の信州大学経済学部のノウハウを用いて解析を行いました。

回収した全 862 名の回答データは、統計解析を行い、一般市民でも解り易いように下図のようにグラフ化し、パネル 23 枚にまとめました。



建築士会と信州大学経済学部との協働体制

本活動では、建築士会と信州大学経済学部との協働体制において、少し変わった試みで取り組みました。それは、専門家が陥りやすい偏見や偏重を払拭する為に、双方の役割を逆転させ、まちづくりに必要な「素人目線」を組込みました。

活動の2本柱である「まちなみ調査」と「アンケート調査」の分担において、本来なら双方の専門分野となる分野を担当し、

アンケート調査 = 経済学部

まちなみ調査 = 建築士会

となります。しかし、本活動では意図的に役割を逆転して、

まちなみ調査 ⇒ 経済学部

アンケート調査 ⇒ 建築士会

として調査を行いました。



これは建築的な視点による専門性を外し、一般市民の目線で活動を行う事で、これまで目を向けなかったものを見直しながら、私達自身のまちづくり視野拡大の学習を兼ねた試みでした。但し、この体制は双方が持つ専門知識や技術を提供し合いつつサポートし合う体制の上で成立します。このような協働体制によって、建築士だけでは成しえなかった大規模な市民アンケートが実現しました。

シンポジウム「城下町小諸を問い直す」開催

2015年2月15日、調査結果の公表の場として、建築士会佐久支部青年女性委員会主催のまちづくりシンポジウムを開催しました。



市民 200 名が来場する中、まちなみ調査報告とアンケート結果報告を行い、本活動から導かれた提言として、コンパクトシティ構想と共に、小諸市各地の地域的多様性を尊重する「地域別まちづくり方針」の必要性を市民と行政へ投げかけました。

「信州まちなみスタディーズⅡ 小諸」を出版



長野県元気づくり支援金を活用し、本活動によって得られた調査内容を、書籍として出版しました。この書籍には、まちづくりシンポジウムの限られた時間では伝えきれない詳細な内容を掲載しています。より多くの市民へ私たちの考える小諸のまちなみ像を伝え、また後世へ残すツールとしての出版となりました。



活動の反響から市政の場へ

本活動は、小諸ケーブルテレビや各種新聞のメディアに大きく取り上げられ、各方面より多くの反響を頂きました。メディアの協力を得て、活動内容をより多くの市民へ伝え、建築士としての社会貢献の一つの形を周知し、活動の波紋を広げる事につながりました。



そして調査内容を市政に届ける為、市役所・図書館・その他公共団体へ出版本の寄贈を行い、本活動によって掘り起こしたまちなみ財産と市民の考える小諸の将来像を具現化する動きへつなげました。

小諸市議会へまちづくり案を提案

2015年6月11日、当初は予定にありませんでしたが、小諸市議会より要請を受け、市民アンケートの報告と共に、私たちの考えるまちづくり方針を市議会へ提案する機会を頂きました。

市議会本会議場にて、小諸市の進めているコンパクト化シティ構想に不足する「地域的多様性」をキーワードとして主張を展開し、市全体として、中心市街地のみではなく郊外の各地域の特色にあったまちづくり方針を検討する必要性を「地域別まちづくり方針」として提案しました。



建築士会青年の部における実践活動報告

活動の進展と同時に、長野県の青年の集い・関東甲信越ブロック大会と選考を受け、全国大会で発表する機会を頂きました。



金沢で開催された全国大会では、支部の皆様のサポートを多大に頂き、最優秀賞という結果を残すことができました。

実践活動報告の発表の場は、賞取合戦ではなく、この活動の周知の場として挑み、多くの

小諸市民へ建築士会と活動の周知につながったと自負しております。大会の結果により、更に多くの市民の感心が集まり、若手建築士のまちづくりへの期待の声を頂きました。

まちづくりの継続性

まちづくり活動において最も重要で課題となる事が「継続性」だと考えています。しかしながら、建築士会のような資格団体が一都市のまちづくりに継続的に関与する事は困難です。その点において本委員会では「組織として地域に入り、個を残して地域を離れる」という手法を理念としました。それは、委員会全員で特定の地域で大きな活動を起こして成果を残し、建築士として地域に認められる「キッカケ作りの活動」を行い、その後の継続的な活動は「地元出身の建築士が、個人のライフワークとして継続していくカタチ」が理想であると考えています。

実際に、本活動後も小諸市在住の私が、個人的に「小諸市市民協働推進市民会議」のメンバーに加わり、市民の代表として行政との意見交換の機会を頂き、市民の立場も持ちつつ、建築士としてのまちづくりへの取組みを行いました。その結果、小諸市第5次基本構想策定の場に席を頂き、議会で提案した「地域別まちづくり方針」を小諸市の今後10年間の方針の一つとして盛り込むに至りました。

建築士の職能と社会貢献

私達は本活動において、一般的に捉えられている建築士の職能をはるかに凌駕し、政治的な領域まで踏み込みました。まちづくり活動のような社会的なテーマにおいては、全ての業種職種が自ら線引きしがちな専門領域から一步はみ出して職能を発揮する必要があります。これまでの既成概念の枠から逸脱し、様々な分野の専門的な知識や職能を、如何に社会へ向けるべきか？を問われている時代が訪れているのではないのでしょうか。



【全国大会】

実践活動報告



【全国大会】

実践活動報告/最優秀賞



青年女性委員会 の紹介

氷区風穴調査活動

氷区風穴群を通じての歴史的資産の再発掘の試

み 2016.04~2018.03

新津輝秋

平成27年度から29年度の3年間という長期間にわたり、青年女性委員会では小諸市氷区に存在する風穴群の調査・維持保全にかかる活動を行ってきました。平成26年度事業で行った小諸市の街並み調査やアンケート調査の活動のテーマとして取り上げた、「小諸市の概要、東地区、相生、本町、氷区」の5つのテーマの中から、一般的に広く知られている「城下町」小諸のイメージとギャップがあり、認知度が低い歴史的資産として価値があると当委員会で判断した氷区の風穴群に着目した活動を行おうということになりました。

この活動の根底には、佐久穂町で行ったまちづくり活動の延長、または派生形として元青年女性委員長である井出正臣さんと信州大学経済学部の武者忠彦准教授による小諸でのまちづくり活動のコンセプトデザインが存在しました。武者准教授からの小諸でのフィールドワークの舞台となった5つのテーマについての提案、井出正臣さんから平成26年度支援金事業の申請についての助言をいただくほか、地域政策課への決算報告も含めた、事業報告書類の作成と地域政策課への報告まで、あまり語られない部分ではありますが事業の中核を担う部分についてご協力いただいたことを、記念誌の上で恐縮ですがお礼申し上げたいと思います。

さて、小諸市の中心市街地から西に約4km離れた場所に位置する氷区には、江戸時代（小諸藩「御用部屋日記」に 明和二年(1765年)乙酉年日記六月朔日乙己 今朝大久保村より氷差上候 と

記載あり）から存在する風穴群の名残を今でも見ることができます。風穴とは自然の地形を利用し、1年を通じ氷点下近い温度と高湿度の状態を安定に保つことができる天然の冷蔵庫です。

小諸市氷区の風穴は江戸時代には小諸藩へ氷を献上した記録が残るほか、全国的に養蚕業が発展した明治時代には蚕が卵の状態越冬する習性を利用して、1年を通して低温な状態を保つ風穴の中に卵を保管し、生産者の需要に対し安定的に蚕の卵を出荷する貯蔵庫として重要な役割を果たしました。その結果、小諸市を含む東信地域において養蚕業が発展し、小諸市内にも当時の繭蔵や製糸業にまつわる建築物の遺構などが現在でも確認できます。

しかし、一般家庭に冷蔵庫が普及した昭和以降には風穴を利用する需要も失われ、維持・管理の手も行き届かず、私達が調査に訪れた当時は、地域住民が漬物の貯蔵を行ったり花卉の出荷時期を調整するために一時的に貯蔵しているといった用途に用いられている1棟のみとなってしまいました。当時は、石積の上に茅葺屋根が葺き頂部にチャンバーの役割を果たしたであろう煙突を設けていたそうですが、現在は落ち葉や枯葉が堆積して一見わからないのですが、石積の上に折板屋根が葺かれた状態となっています。後の調査で明らかになるのですが、この風穴は氷区内で暮らす個人の所有物であり、会社や区の共有財産として使われていた他の風穴が廃業していく中でもできる範囲で補修を行ってきたとのことでした。結果的に現在まで風穴の機能を伝え、その価値を体験し知ってもらうのに貴重な財産になっているのではないかと思います。

現在は、この方が所有している風穴の多くは佐久市内の酒造会社と賃貸契約を結び、日本酒の貯蔵所として活用されていると聞いております。氷風穴は1年を通じ電力などを用いない自然エネルギーだけで摂氏2度前後を保っているため、冷温醸造を行うのに非常に経済的であるといえます。またなにより、冷蔵庫と違いコンプレッサーやファンによる振動が発生しないため、振動を嫌う日本酒の貯蔵とは非常に相性が良いと聞いています。

上部にかけられていた屋根は解体されてしまいましたが、地下の石積部分が残っているものについては現地にて確認することができます。現在、確認できる風穴だけでも7～8棟あり全国でも類を見ない規模の風穴群とのことでした。

これらの風穴群を維持・保全し、広く周知することは地域の伝統文化の継承になるものと当委員会では考えました。また、自然の地形を利用して真夏でも氷点下近い気温を保つ風穴の構造や仕組みを知り、伝えていくことは環境保全や自然エネルギーの有効活用の観点からも有意義なものであると考えました。

平成26年度の事業の後、氷区に興味を持った当委員会ではあるのですが、氷区自体は、世帯数も30に満たない高齢者率が高い小さな集落であったため、どのように活動を行っていくか慎重に検討する必要性がありました。見学会や清掃活動などを行うにしても地域の方の理解がなければ、当



委員会の活動が氷区の方が望まないただの押し付けになってしまうのではないかと考えました。

そのためにまず、区長さんの了解を得て実施した風穴群の見学をふくむワークショップを行い、参加者からは氷区の風穴群や周辺環境を体験した感想や今後の活用のアイデアなどがあがりました。



その意見を当委員会でもまとめ、ワークショップの報告会として氷区住民に報告し今後の氷区風穴群の在り方をその所有者に問い、意見を伺うことにしました。

先述のワークショップには、小諸市民や小諸市内の観光ガイドに携わっている方や、小諸の養蚕の歴史を研究している方など、多分野にわたる参加者が集まり、それぞれの専門分野をベースとした貴重な意見を聞くことができました。

- ・風穴を利用した食材（日本酒や蕎麦など）の低温醸造
- ・小諸市の観光マップやガイド協会のコースに組み込み周知を図る
- ・保存会を結成し、長期的な維持・活用方法の模索等

これらの意見を後日氷区住民向けの報告会を開催し、報告しました。当日は小さな集落であるにもかかわらず、20名以上の方に参加いただきました。自分達が暮らす地域に対して、客観的な意見を報告したところ、そこにあるのが当たり前だと思っていた風穴の価値を初めて認識した方や、近くの池で凍らせた氷を夏に出荷するために風穴まで運んだ思い出等、様々なお話を伺うことができました。風穴群を氷区の財産として再認識し、維持保全に努めることに概ね好意的な意見をいただいたほか、保存会の結成についても前向きな意見を聞くことができました。

報告会を行ったことで、当委員会の活動について氷区住民に理解してもらえたので、見学会や周辺の清掃活動などを士会の活動として行いました。長年に渡り放置され蓄積した落ち葉や土砂の除去



や、周辺の倒木や藁の除去などを行うことで、手付かずの状態ですぐに立入り難い廃墟のような雰囲気であった景観を少しずつではありますが、里山の山林と人工物である石積みが融合した特徴ある景観形成ができたのではないかと考えます。個人的な意見ではありますが、氷風穴群の魅力は天然と人工の融合にあると感じています。様々な制約があり、風穴が低温貯蔵庫として機能していた頃のような茅葺屋根を復元することは困難かもしれませんが、屋根がなくとも氷風穴群の魅力は色あせないと思います。

平成27年末には氷区住民を中心として氷風穴保存会も結成され、地域住民主導のまちづくり活動の足掛かりができたと考えた当委員会では、平成29年度に、建築士会佐久支部と氷風穴保存会の連名で長野県 地域発元気づくり支援金 事業の申請を行い、実施しました。事業の内容の概略は以下の通りです。

ハード事業として

1. 地区への入り口や風穴を紹介する看板の設置（氷区入り口の看板と駐車場の看板は当委員会の若いメンバーを対象とした設計コンペを行い、優秀なアイデアを元に当委員会で作成しました。）
2. 地区内の道路が狭く車両でのすれ違いが困難なため、風穴に近い空き地を見学者用の駐車場として整備
3. 利用されていない風穴跡の石積みについて、崩れている個所や崩れかかっている個所があるため、崩壊した部分の石積みの撤去や入り口の補強の実施

ソフト事業として

1. 一般的に知られる冷風穴と対の関係にある温風穴の仕組みや風穴群周辺の特異な気候条件により周辺地域とは異なる植物が植生している事実をより多くの人に知ってもらうための講演会の開催
2. 明治時代には、蚕糸紙を保存し種の孵化の時期を調整する貯蔵庫として機能しており、蚕の年間を通しての安定供給につながる重要な役割を果たしてきました。氷区の風穴群から出荷された蚕糸紙をもとに、小諸市内で養蚕業が発展したといえます。氷風穴を起点とした小諸市内の養蚕業の名残りを巡るコースを設定し、**小諸のシルクロードをめぐるツアーとして、まち歩きツアーを開催。**
3. 堅穴状に積まれた石積み周辺の墜落・転落災害防止措置と清掃作業を行い、周辺環境のさらなる整備の実施。

また、関連事業として平成29年度9月に開催された第4回全国風穴サミットin小諸の運営に携わりました。

一連の事業の成果については、荒木委員の各所での発表のほか、会報などでも紹介していただいておりますので、今回は割愛させていただきます。

支援金を活用した事業につきましては、前述の通り平成29年度は建築士会と保存会の連名で行いました。平成30年度以降につきましては建築士会佐久支部及び当委員会と離れ、氷風穴保存会が更なる環境整備や講演会やイベント開催を通じた周知・PR活動を支援金事業として行っています。ここから先は保存会が主体となった活動を小諸市を拠点とする建築士がバックアップしていく段階かと思えます。地域に密着した建築士のさらなるサポートを期待して私の報告を締めたいと思います。



青年女性委員会 の紹介

御代田町フットパス 活動

御代田町フットパス 2018.01～11（平成30年度）

緑川博行

青年女性委員長：緑川博行 /副委員長：鎌田賢太郎、飯田智、山田まどか、真嶋直行

企画者（支援金担当）：山田まどか



平成30年度より新たな活動場所を移す必要があった。幾つかの候補の中から北佐久郡御代田町でのフットパスの提案が出たのが始まりであった。年明け早々に、長野県元気づくり支援金にも申請することになり急遽計画を立て2月上旬に申請、3月には現地調査を開始しました。

【フットパスとは】

英国で始まった仕組みで、だれもが歩いて楽しめる通り道のことです。ありのままの街や集落、自然の中に歩くコースを設定して、それを紹介する地図をつくり、訪れた人が地図を片手に思い思いに歩いて地域の風景を楽しみます。フットパスを行うことで御代田町の自然景観の良さや史跡などを掘り起こし地域に根付いた文化や、地域特性について考えてくれる事を誘発する活動の契機になればと考えました。

青年・女性委員が地域集落の魅力や歴史を掘り下げることで地域資源の見直しに繋がり、新たな地域づくり、街づくりになることも期待をした。単なる観光地化するので

はなく、ありのままの自然や集落の良さを町内外・県内外の人に伝え実際に訪れて感じてもらう。また我々建築士会だけではなく、多くの一般の方に参加してもらうことで、これからの地域づくりについて考えるキッカケになってくれれば幸いと考えました。

コース選定は、北部の浅間山麓のサンライン～1000m林道付近の森林地帯か、南部の湯川沿いかで現地視察を兼ね検討した結果、南部の豊昇、面替2地区で行うこととなりました。町内でも過疎化が著しいエリアではありますが河川浸食によってできた田切地形の独特の地形形成と左岸側の古東山道沿いの集落が特徴であり古くからの文化や史跡が残っている地域です。



【コース散策】

コースを決定するまで合計5回ほど現地調査を行った。朝5時に集合したこともあり、皆眠い目を擦りながら何キロも歩いた日もありました。やはり実際に歩いてみないとコースが妥当なのか分からないため歩いて回るのは楽しかった。知らない土地ということもあり探検している感覚で湯川の音や高低差による景色の変化が心地よいと感じた。



3/24 に青年数名で豊昇地区内の山城集落である梨沢にて散策。山城の頂上に20~30世帯ほど暮らしており、鎌倉時代(1221年)の居城跡があり、当時の遺構を残しているかのような四角形の村の区画が面白いと思えた。むかし信濃の国には16の官牧があり良質な馬を育てていた。そのうちのひとつに長倉の牧があり、ここ梨沢村に奉行が居住していた。牧は古東山道のルートであったことから伝馬や流通にも適していたと思われる。東山道は中山道の前身的な街道で江戸が出来る以前は、ルートが異なっており浅科→長土呂→横根→面替→草越→発地であった。主要街道のルート変更こそ、現代の高速道路や新幹線と同じようにインフラで栄えるところと衰退するところが生じてしまう。



また村の規模からすると神社やお寺が多いのも特徴的である。4/28に豊昇地区の宮平遺跡に向かった。

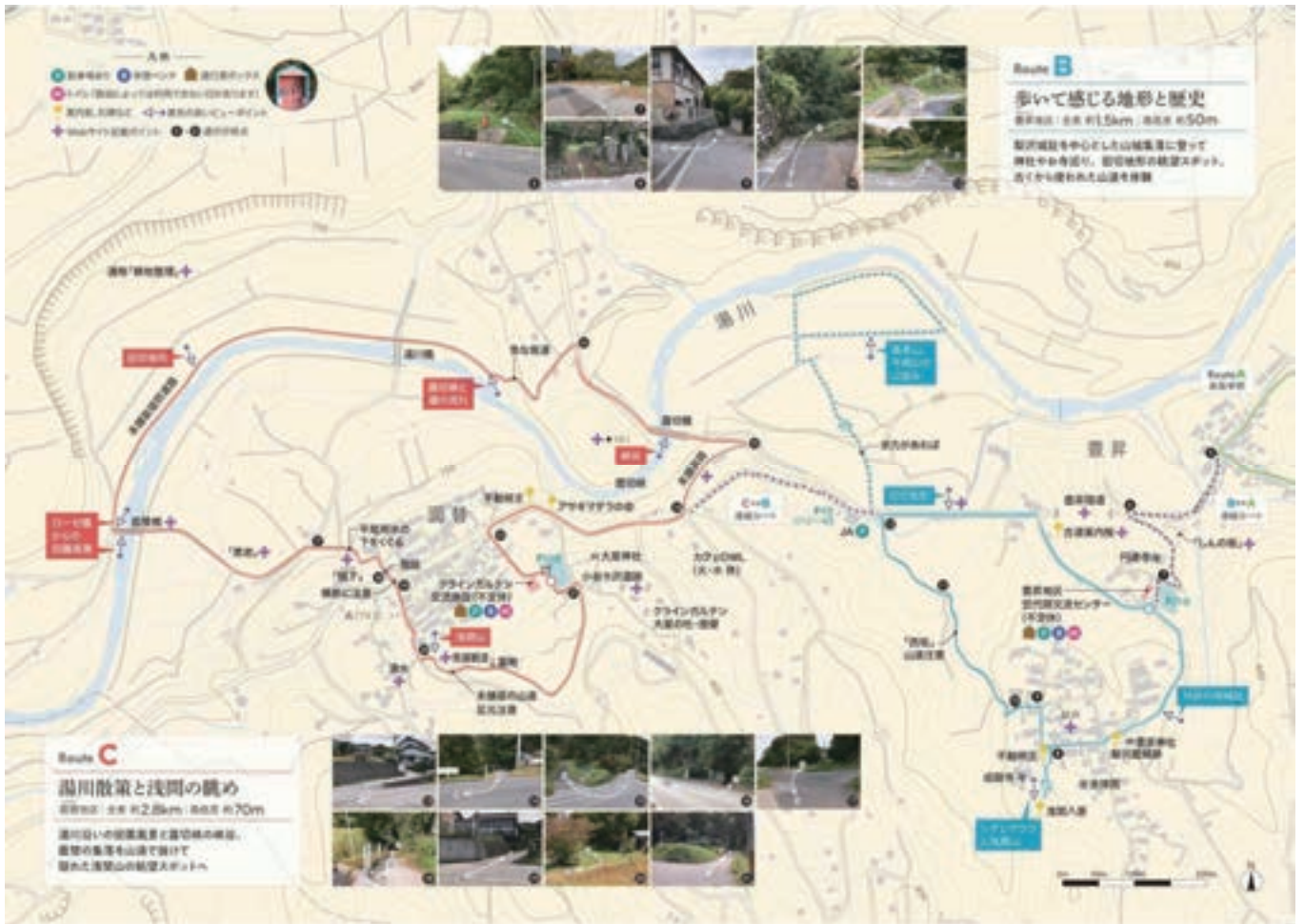
森の中を通過して道なの？みたいのところを通過して

やっと辿り着いた。朝霧の中を歩いたせいか奇麗な景色であった、ここは縄文時代の遺跡が発掘されている場所で翡翠なども見つかったと地域の方から聞いた。古代から交易があった場所なのである。この遺跡には住居や厩舎など存在していた。



5/12に湯川沿いと面替地区を回った、田切地形の崖のインパクトが強い、湯川の河川侵食により何万年もかかると幾層もの地層が見える。湯川の右岸側から廻ってくると落差は低いと迫力のある滝も見ることが出来る。また河川を堺に浅間山麓の火山性の堆積層と平尾山の土質の違いで生息している植物まで異なっている。面替集落は世帯は少ないが移住者対策でクライנגルテンという施設を作り、都心から年間契約で畑仕事や地方ライフを楽しみにしている人が利用していました。地元の人だけでは過疎化は食い止められないので良い施策だと思う。また区長さんが話し好きということもあり、見所や歴史の話をいろいろ教えてくれました。





く上では相互に良い影響をあたえたと思う。

まとめると

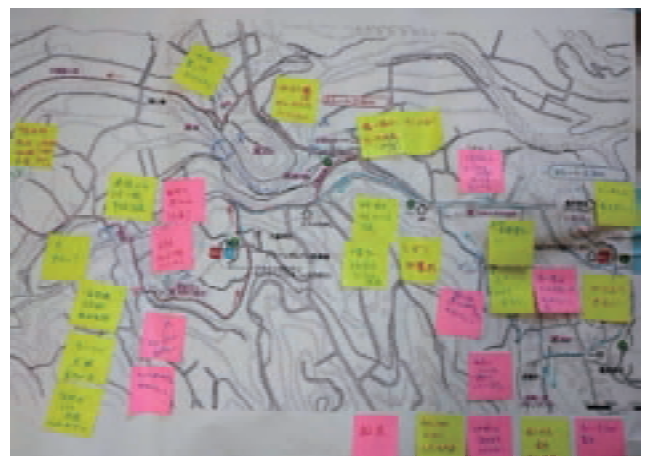
- 1.地形は街や集落の性格を必然と決めてしまう。
- 2.集落や地域の人との関係性の作りかた。
- 3.自然景観の良さや史跡などがある。

[仮コース歩きとワークショップ]

6/30に早朝から大勢の方が集まって頂き、今までコース散策して設定した仮コースを3グループ分かれて歩いた。晴天に恵まれたため暑さはあったが、各コース特徴が異なるため歩いた感想はまちまちであったが楽しかったと言ってくれる人が多くて嬉しかった。歩いた後の各自の気づいた点などをフィードバックし地図に反映するワークショップを行った。やはり地元の方の意見は貴重であったし、



町外(外部)から見た違う観点も面白く、地域を理解してい



フットパスの主要な要素としては、街と街を結ぶ街道と同じなのである。道は地形に支配的に決定づけられ自然と集落が発生する。集落は地域住民の増減や時代変化に伴いユックリではあるが景色と共に変えていくのが自然の流れであろう。



【御代田フットパスコース開き】

11/18に御代田フットパスのお披露目イベントを行いました。準備期間や宣伝活動に多くの方のご協力を頂き、我々青年・女性委員会が今年から活動してきた成果を形に出来たと思います。当日は天候にも恵まれ150名程の参加者がありフットパスの講師の講演を聞いた後バスで現地向かいました。青年委員がグループのガイド役を務め景観や史跡案内が出来たと思います。私が務めたBコースの梨沢集落は歴史や村の形成に関心が深いが多かった

ので立ち止って話しこむ方が多く、なかなか前進しなかったのですが楽しく廻れたと思います。

例え小さな地域集落であっても、初めて訪れてくれた方が歩いて何かを感じてもらえたと思います。各々が今回のフットパスを通じて何かのステップになってくれれば幸いと思います。

この記念冊子を読まれた皆様は是非歩いてみて頂きたいと思います。



総務企画委員会の紹介

総務企画委員長 菊池弘之

此处では、総務企画委員会の企画項目・運営内容を記載致します。

■規約・運営規則の改定

この10年間は、公益法人化に向けて、本会・支部との運営方針が変更になり、それに伴い規約・運営規則が改定されております、数年前に会計統合による改定を行い、今年度も、公益法人化に向けての改定を行うべき素案を作成中です。総務企画委員会では素案作成までが役割であり、幹事会での承認を得て改定しております。

■視察研修の企画・運営

此方は、隔年で視察研修に行きます、担当は事務所協会・建築士会と交代ですので、建築士会は4年に一度、担当となり企画（見学先）・運営を行います。



半年前より企画しなければバス・ホテルの予約が取れないなど、又、最近では全国大会の青年女性委員会の地域実践活動発表と重複行動となり、複雑な旅程表を組むことになります。

- ・H21年度 山形県
- ・H22年度 石川県
- ・H23年度 神奈川県・千葉県（事協主催）

- ・H24年度 茨城県
- ・H25年度 島根県
- ・H27年度 茨城県（事協主催）
- ・H27年度 石川県応援ツアー
- ・H29年度 京都府
- ・H30年度 埼玉県

■新年講演会 企画・運営

毎年2月上旬に、各方面の方々の講演会を開催しております。



- ・H21年度 柳澤孝彦氏（TAK建築・都市計画研究所代表）
- ・H22年度 吉岡 忍氏（ノンフィクション作家）
- ・H23年度 市村良三氏（小布施町長）
- ・H24年度 藤巻 進氏（軽井沢町長）
- ・H25年度 香山壽夫氏（建築家 東京大学名誉教授）
- ・H26年度 小林りん氏（インターナショナル・オブ・アジア軽井沢代表理事）
- ・H27年度 内藤 廣氏（建築家 東京大学

名誉教授)

- ・H28年度 武者忠彦氏 (信州大学経法学部准教授)
- ・H29年度 青木裕子氏 (元NHKアナウンサー・軽井沢朗読館館長)

■本会発行の建築士ながの 佐久支部担当・原稿依頼

1. 支部活動報告
2. フリートーク
3. 表紙のふるさとの民家
4. 裏表紙のまちかど美術館 (今年度より遺したいまちなか)

上記4項目に対しての原稿依頼などがあります、佐久市支部内での美術館は全て掲載したので、題目の変更を2年程前より進言しておりましたが、ようやく今年度、題目を変更した本会の対応に敬服致します。

■建築士フォーラム (本会主催) 参加協力

来年度、木曾支部でのフォーラム開催が、各15支部で全て開催されたことになり、再来年度、以降の開催が未定ですが、参加の方々の声掛け・取り纏め

■緊急災害時連絡網について (前々委員長の山口さんまで総務担当) 現在は、社会貢献委員会が主となり連絡網の整備がされておりますが、6年程前まで総務企画委員会が担当でした、来年度より再編がされ、再度、総務企画委員会での担当になりそうです。

■ゴルフコンペの開催企画・運営

支部活動でのゴルフコンペは、東信ブロック (埴科・上小・佐久) 会員コンペと、三団体 (建築士会・事務所協会・防災協会) 合同親睦ゴルフコンペと各1回/年あります。

担当は各ブロック及び団体の持ち回りなので3年に一度、幹事的な役割が回ってきます。

本会活動の県ゴルフコンペが県内15支部、持ち回りではありますが、昨年 (H29年) が、佐久支部担当として、前任の現・臼田支部長の頃よりゴルフ場の予約・90人程の組合表・参加賞の手配・景品の交渉などがあります、昨年は、台風の影響でハーフプレーとなりましたが、無事終了しました。



■総務委員会は各5地区から一人選出され、支部長・担当副支部長と委員長の計8名での委員会活動ですので、他の委員会に所属されている方々は、総務企画委員会の活動内容をご存じないと感じておりました、今回は、良い機会を頂いたと思い、企画項目・内容を報告させていただきます、活動が活発な佐久支部は、物事が割とスムーズに進みます、これは、我を張る (反対する) 会員が少ない (いない) と感じております。企画が決まった段階で流れるように物事が進んで行き、人数も確保され、滞りなく終了します。

体育会系の気質も感じますが、各々委員長・委員の方々が任された事項は責任を持って遂行する、その様な方々が多く集まっていると感じます。歴代の支部長の人望があつての事と推測します。又、事務局・萩原さんは長年の経験と、心遣いもあり、本当に頼りになります。

この場を借りて感謝申し上げます。

教育事業委員会の紹介

教育事業委員長 茂木隆

佐久地域建築文化賞の記録

平成21年度第10回佐久地域建築文化賞

○ 最優秀賞(地方事務所長賞)

- ・一般部門 該当作品なし
- ・住宅部門 作品名: もっと光を!
建設地:佐久市八幡
設計者:山浦 伸一
株式会社Do建築設計企画

作品名: もっと光を!



○ 優秀賞

- ・一般部門 該当作品なし
- ・住宅部門 作品名: 岩村田の家



建設地:佐久市岩村田
設計者:甘利 享一
甘利享一建築設計舎

審査会



平成23年度第11回佐久地域建築文化賞

○ 最優秀賞(地方事務所長賞)

- ・一般部門 該当作品なし
- ・住宅部門 作品名: 八幡の家
建設地:小諸市八幡
設計者:甘利 享一
甘利享一建築設計舎

作品名: 八幡の家



○ 優秀賞

・一般部門

作品名: **みはらし交流館**

建設地:小諸市滋野

設計者:甘利 享一

甘利享一建築設計舎

作品名: **みはらし交流館**



・住宅部門

作品名: **五角筒の家**



建設地:御代田町塩野

設計者:甘利 享一

甘利享一建築設計舎

作品名: **美容室と光庭の家**



平成25年度第12回佐久地域建築文化賞

○ 最優秀賞(地方事務所長賞)

・一般部門

該当作品なし

・住宅部門

該当作品なし

○ 優秀賞

・一般部門

該当作品なし

・住宅部門

作品名: **美容室と光庭の家**

建設地:小諸市大字市

設計者:鎌田 賢太郎

鎌田建築設計室

作品名: **軽井沢I邸**



・住宅部門

作品名: **軽井沢I邸**

建設地:軽井沢町大字長倉

設計者:菊池弘之・菊池広美

菊池ひろ建築設計室

平成27年度第13回佐久地域建築文化賞

○ 最優秀賞(地方事務所長賞)

・一般部門 作品名: 市民創錬センター
建設地:佐久市猿久保
設計者:武重 直人
(株アーキプラン)

作品名: 市民創錬センター



・住宅部門 作品名: 常田の家



建設地:佐久市常田
設計者:土屋 将奈
土屋建築設計舎

作品名: 立科町 保育所



○ 優秀賞

・一般部門 作品名: 立科町 保育所
建設地:立科町大字芦田
設計者:東濱 四雄
(株東濱設計)

作品名: 一本柳の終の住処



・住宅部門 作品名: 一本柳の終の住処
建設地:佐久市岩村田
設計者:鎌田 賢太郎
鎌田建築設計室

実務講習会 の記録

■平成20年度 委員長 山浦伸一

第一回:山古志村復興住宅視察研修会

第二回:瑕疵担保保障制度について

講師:日本住宅保証検査機構(JIO)様

第三回:ダイライト耐震壁「かべ大将」設計施工
工技術者研修会

講師:大建工業(株)様

第四回:建築士の為の勉強会

・塗装工事について

講師:(株)コシミ商会様

第五回:建築士の為の勉強会

・左官工事について

講師:(有)フルコシ建装様



■平成21年度 委員長 柏木邦彦

第一回:建築確認申請手続の運用改善

講師:地方事務所建築課様

第二回:佐久市景観条例計画及び都市計画地
域の拡大について

講師:佐久市役所建築課様

第三回:建築士の為の勉強会

・開放型ストーブと内装制限の関係

講師:地方事務所建築課様

第四回:住宅瑕疵担保履行法と地盤調査と地
盤改良工事の方法について

講師:(株)土木管理総合試験所様

第五回:川越街並み見学会

第六回:工事監理ガイドラインと業務報酬基準
の見直しについて

講師:建築士会会員小泉 英夫様

第七回:住宅版エコポイント制度について

講師:日本住宅保証検査機構 (JIO)様

■平成22年度 委員長 柏木邦彦

第一回:硬質ウレタンフォームと基礎断熱と白
蟻被害について

講師:シンジェンダジャパン(株)様

第二回:山梨建築作品見学会

・キースヘリング美術館、竜王駅

第三回:防火避難規定について

講師:長野県職員様

第四回:小諸市景観条例の説明

講師:小諸市役所職員様

第五回:構造用集成材を利用した木造建築

講師:齋藤木材工業(株)様

平成23年度 委員長 柏木邦彦

第一回:屋根板金工事について

講師:元旦ビューティー工業(株)様

第二回:平成22年度版建築工事標準仕様書
6章コンクリート工事について

・設計基準強度、養生、試験等の設計
監理及び現場管理上の品質管理

講師:住友大阪セメント様

第三回:石膏ボードを使用した耐火構造

・タイガーハイクリンボードについて

・省令準耐火構造のメリットについて

・吉野耐火システムについて

講師:吉野石膏(株)様

■平成24年度 委員長 柏木邦彦

第一回:住宅市場の省エネ基準に関する現状
と動向について

- ・開口部に求められる省エネ基準と省エネに関する製品の説明

講師:AGCガラスプロダクツ(株)様

第二回:ゼロエネ住宅時代の幕開けについて

講師:住友林業(株)事業開発部様

第三回:窓から考えるゼロエネルギー住宅

講師:YKKAP(株)様

第四回:国や地方自治体が推進する国産材の利用について

講師:ニチハ(株)様

第五回:住宅瑕疵担保責任保険に関する解説

- ・防水事故の現状と解説
- ・リスクの高い施工の解説
- ・外壁面における防水施工提案
- ・1階下屋における小屋裏換気の提案
- ・バルコニー・パラペットにおける換気と防水の両立

講師:日本住環境(株)長野支店様

第六回:災害に強い全室24時間暖房、土壌蓄熱サーマ・スラブについて

- ・蓄熱と深夜電力の有効活用暖房システムについて

講師:サーマエンジニアリング(株)様

中部電力(株)長野支店営業部様

第七回:ディスプレイについて市町村の対応及び条例改正

- ・ディスプレイのメリットと実演

講師:(株)不動産

(株)ダイキアキス長野営業所様

■平成25年度 委員長 茂木 隆

第一回:非構造部材(天井)の耐震診断と耐震対策について

講師:(株)片桐製作所長野営業所様

第二回:既存住宅における高性能建材導入促進事業を活用したリフォーム用ガラスと住宅・建築物分野における今後の

省エネ対策について

- ・既存住宅における高性能建材導入促進事業の概略説明

- ・水配管レス調湿・換気ユニット「DESICA」について

- ・湿度コントロールによる省エネ性と快適性の追求

講師:AGCガラスプロダクツ東日本関東様

ダイキンHVAOソリューション東京(株)様

第三回:確認申請の留意事項について

講師:佐久地方事務所建築課様

第四回:平成12年の建築基準法改正に伴う性能規定化により、可能となった木造建築物の3階建て構造について

講師:吉野石膏(株)長野営業所様



■平成26年度 委員長 茂木 隆

第一回:住宅取得に関わる最新の国政の動向

講師:(株)ジューテック長野営業所様

■平成27年度 委員長 茂木 隆

第一回:自然エネルギーを活用した快適な暮らしの為に重要なポイントについて

- ・換気機能と断熱性能の劣化対策
- ・耐震性能の余震対策
- ・施工品質のバラツキ対策
- ・プレウォール工法の説明

講師:ウッドリンク(株)様

第二回:耐震改修の背景について

- ・耐震改修における国の施策について
- ・補強方法率について
- ・壁強さ倍率について
- ・『あんしん』耐震リフォーム工法についての説明

講師:ニチハ㈱市場開発部様

第三回:2015年以降の住宅行政動向とその対応と樹脂窓の提案

講師:YKKAP㈱様

■平成28年度 委員長 茂木 隆

・第一回:安全教育と事業者責任について

講師:厚生労働省 労教習機関
住建センター選任講師清水美義様・第二回:改修工事における建築材料とひび
れ補修方法について

講師:菊水化学工業㈱様

・第三回:長野県福祉のまちづくり条例の改正
について

- ・長野県景観条例の改正について
- ・平成28年度における建築基準法
施行令等の改正について

講師:佐久建設事務所建築課様

・第四回:住宅ストック循環支援事業補助金と
2017年度の国策について

講師:YKKAP㈱様

■平成29年度 委員長 茂木 隆

第一回:HEAT20、ZEH、改正省エネ基準が目
指すもの

- ・求められる熱的境界に対する断熱材
- ・住宅温熱環境に気密性能はどの程
度の影響を与えるか
- ・求められる熱的境界に対する断熱材
及び周辺部材構成

講師:日本住環境㈱様

第二回:改正省エネ基準や地球温暖化条例
とそれに伴う助成金等2018年以降
の業界動向の予測について

講師:YKKAP㈱リノベーション本部様

第三回:高気密住宅の建物内の音に対する
苦情の種類・大きさ・伝搬方法の解
説及び対処方法について

講師:大建工業㈱音響製品部様

第四回:既存住宅状況調査 実技講習会

- ・対象建物の現地調査

講師:長野県建築士会佐久支部長

第五回:既存住宅状況調査 調査書類作成の
仕方について

- ・調査結果に基づく書類作成

講師:長野県建築士会佐久支部長



■平成30年度 委員長 茂木 隆

第一回:木造の外皮性能と一次消費エネルギー
計算の研修其の一

- ・外皮計算と計算方法

講師:ハウスプラス住宅保証㈱様

第二回:木造の外皮性能と一次エネルギー消
算の研修其の二

- ・外皮性能計算の演習

講師:担当副支部長

第三回:ビル用アルミ製防火設備の通則認定
から個別認定への移行について

講師:YKKAP㈱様

社会貢献委員会の紹介

社会貢献委員長 星野武光

活動について

佐久支部では、建築士としての職能を活かして地域貢献事業を企画、実施しています。その時の地域や話題となっていることなどを取り上げ企画しており、例えば、2年連続に「知って得する！住宅セミナー」として、住宅のエネルギーの転換期としてキッチングリルがガスから電気のIHへと、また給湯機具が灯油から電気へと大きく台頭して話題となり、各エネルギー会社のプレゼンを同会場で聞く事が出来るセミナーを開催。軽井沢にある有名建築家の作品見学会を開催。建築士だからこそ可能にしたセミナーや見学会、よく聞かれる疑問に答えたり、普通では内観することの出来ない貴重な建築見学を企画しました。近年においては、まちづくり部会・防災部会・住宅ストック部会の三部会をつくり、多岐に渡り地域の必要と自主的な活動を実施しています。住宅ストック部会は、増える空き家の対策を行政の協議会へ参加して行ない、また空き家となってしまうように利活用を促進するため、物件を調査して改修の必要箇所を判断し補修工事により中古建物を安心して売買できるお手伝いとして既存住宅状況調査などを推し進めています。では、他の防災部会とまちづくり部会について紹介します。

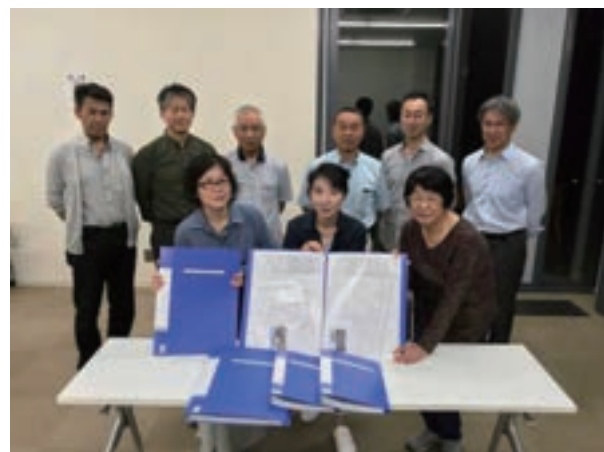
している市町村は、佐久市・小諸市・立科町・御代田町・軽井沢町・佐久穂町となっており、その他の町村との協定の計画も進めています。防災部会では、平成29年立科町・御代田町にマップを提出し、佐久市・小諸市は、マップも10年が経過したため見直し作成し、平成30年に最新版として提出してあります。軽井沢町・佐久穂町は現在作成中で本年度中の提出を予定しています。データ化、プリント、ファイリングを委員が担当別に行っています。防災部会は今後も防災マップの作成、応急危険度判定士を対象とした講習会の実施等々を計画し、建築士の資質の向上と社会貢献活動をしていく部会です。より多くの皆様に応急危険度判定士になって頂き、一緒に活動して頂きたいと思います。



防災部会 ～防災マップ～

2013～2016年度 委員長 吉澤和彦

(一社)長野県建築士会佐久支部は、佐久建設事務所管内の市町村と、災害時に相互に協力し、必要な対応を円滑に遂行するために「災害時における応急危険度判定等の協力に関する協定」を締結しています。この協定は、災害時に市町村が使用する、本部施設及び避難施設等に対して行う応急危険度判定等の活動とします。現在協定を締結



まちづくり部会 ～「親子でつくろう！ ウッドクラフト」～

2007～2012 年度 委員長 山田 功



今年で第12回を迎える「ウッドクラフト」、思い返してみると第2回よりイオン佐久平をお借りし、毎回色々な企画を取り入れて進めて来ました。イスやCDラックなどを製作するコーナー、ホットボンドを使い、木の枝や木の実を接着して作品を作るコーナーを基本として、丸太切り体験コーナー、家庭で出来るデッキの製作教室なども行いました。



「ウッドクラフト」の目的は、建築の重要な材料である「木」に実際に触れ、良さを感じてもらふことと共に、親子が一緒に造る喜びの時間を持つことだと考えます。その為に、かなづちの握り方、釘の打ち方など教えながら、楽しんで作ってもらえるように、なるべく会員は見守り、怪我だけは注意するよう心がけました。

もう一つの重要な目的は、私たち「建築士会」を多くの皆さんに知っていただく重要な場所と考

えています。そのために「佐久地域文化賞」、「私の景観、写真コンテスト」また、青年・女性委員会の「ねむの木ロード」を最初に、委員会の活動記録、各地域の防災マップのパネル展示を行いました。また昨年からは、丈夫な建物をみんなで考えて、作るコーナーも始めました。ウッドクラフトは、社会貢献委員会が担当となり開催してきましたが、多くの会員の皆さんの協力もあり、今は大きな建築士会の広報の場として役割を担っている事業となっていると思います。また、上田情報ビジネス専門学校生徒たちが毎年スタッフとして加わっていただき、新たな交流が出来たことも成果に挙げられます。この事業には、当日はもちろんですが、材料の調達から加工、会場の準備まで、本当に多くの会員の方々によって、進められています。忙しさや苦勞することもあります、参加して下さる親子の皆さんとのふれあい、その笑顔を見る時、「また来年も。」と思います。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。



情報広報委員会の紹介

会報ちくま表紙撮影 ～過去10年間の記録～

情報広報委員長 山浦孝志

情報広報委員会では、ちょうど10年前に会報「ちくま」表紙の模様替えをしました。

10年前の「ちくま」41号より「佐久の蔵元」(13酒蔵)にてスタートしました。(いままでは公共建築物の竣工写真を掲載)。又、表紙の写真も自分たちで撮影取材をする事にしました。

撮影取材をする事で、普段は立ち入る事のできない建物の内部を見学したり、建物の興味深いお話をお聴きする事ができました。

又、2年前の「ちくま」54号より「佐久の札所」にてスタートしました。「佐久の蔵元」13酒蔵、全ての掲載を完了した為です。

■「ちくま」41号

佐久の蔵元 黒澤酒造株式会社



■「ちくま」42号

佐久の蔵元 橘倉酒造株式会社



■「ちくま」43号

佐久の蔵元 武重本家酒造株式会社





■「ちくま」45号

佐久の蔵元 大塚酒造株式会社

江戸時代に創業し、明治26年創設の小諸義塾運営にも参画。その教師島崎藤村が傾けたにごり酒は「千曲川旅情のうた」に歌いこまれました。

■「ちくま」46号

佐久の蔵元 佐久の花酒造株式会社



■「ちくま」44号

佐久の蔵元 大澤酒造株式会社



■「ちくま」47号

佐久の蔵元 木内醸造株式会社





■「ちくま」49号

佐久の蔵元 千曲錦酒造株式会社



■「ちくま」48号

佐久の蔵元 伴野酒造株式会社



■「ちくま」50号

佐久の蔵元 株式会社古屋酒造店



■「ちくま」51号

佐久の蔵元 芙蓉酒造協同組合



■「ちくま」53号

佐久の蔵元 戸塚酒造株式会社



■「ちくま」52号

佐久の蔵元 株式会社土屋酒造店



■「ちくま」54号

佐久の札所 第1番札所 布引山積尊寺



■「ちくま」56号

佐久の札所 第3番札所 西光寺



■「ちくま」55号

佐久の札所 第2番札所 東漸寺



■「ちくま」57号

佐久の札所 第4番札所 真楽寺



■「ちくま」59号

佐久の札所 第6番札所 安養寺



■「ちくま」58号

佐久の札所 第5番札所 長泉寺



交流委員会の紹介

交流委員長 大町栄一

交流委員会の誕生は平成25年度になります。その年、新佐久支部長に就任された荻原支部長及び幹事会により、長野県建築士会佐久支部会員同士の親睦及び賛助会員との交流を深めることを趣旨として、親睦ソフトボール大会、建築士ネットワーク、親睦ゴルフ大会、賛助会員との交流会、会員拡大事業の計画と運営を執り行う委員会として設立されました。初代委員長は柏木邦彦氏が抜擢され2期4年に渡り多様な面でご尽力いただきました。しかしながら平成27年度は長野県建築士会本会統合の年となり、会計をはじめ様々なイベントの見直しを要求されることとなり、26年度まで毎年実施されてきた建築士ネットワークも隔年開催もしくは新年講演会等と合併または休止となる様相となっています。佐久支部としての単独活動がかなり制限を受けるようになってきたのは否めません。また親睦ゴルフ大会は総務・

企画委員会が執り行うようになり、会員拡大は青年女性委員会が主として新人加入に励んでおりますので現在の交流委員会は親睦ソフトボール、親睦バーベキュー大会、賛助会員との交流会、レジェンド会



員による会員への相談、援助アドバイザーシステムの運用などを6人の委員が協議し、執行しています。



親睦ソフトボール大会は毎年盆休み明けの真夏の暑い時期に開催しています。この時期は天候に開催を左右されることもしばしばありましたが炎天下の下、老若男女の精鋭が佐久地区、小諸地区、川西地区、南佐久地区、御代田軽井沢地区に分かれてトーナメント制で競技を行い、優勝チームには優勝賞金も授与されることから白熱した試合が繰り広げられます。

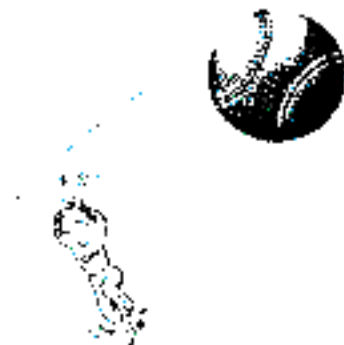


試合の後は恒例でバーベキュー大会が行われ、ソフトボール大会の表彰式とホームランを打たれた人やファインプレーをされた方にも個人表彰をするなどして、和気あいあいな雰囲気の中、焼き肉をほおばっています。

建築士ネットワークについては別紙詳細が紹介されているので割愛させていただきます。賛助会員との交流会は過去に1回しか実施されていませんが20社以上が登録されており、今後益々建築士会への支援と協力を仰ぐうえでも賛助会員の皆様の意見や最新技術を教えていただくなど他委員会とともに交流する機会を増やしていきたいと考えております。またレジェンド会員によるアドバイザーシステムは、建築士会佐久支部に所属されている豊富で多様な経験と知識をお持ちのレジェンド会員にサポートやアドバイスを必要としている会員への支援をお願いします。相談できる項目として「計画」「設計」「積算」「施工」「法律」など多岐にわたってアドバイス

を受けられるシステムとなっています。相談内容によって専門家を選択し、的確なアドバイスを受けられるように交流委員会がお手伝いいたしますので、是非ご活用ください。

今後公益社団法人への移行に伴い社会貢献的活動が主流となり、支部内のレクリエーション的活動は自粛傾向を余儀なくされ、交流委員会自体も消滅または他委員会に吸収合併されることになるかもしれませんが、これからも会員皆様の交流と懇親活動のお手伝いをしてまいります。



入 会 者 の 一 言

2009～2018年度入会者より

■ 2009年度入会者

大井 絢子

30周年おめでとうございます。まだまだ未熟で、日々学びの毎日です。仕事に子育てにと、慌しく毎日を送っておりますが、今後は講習会にも出席したいと思っております。

藤巻 宏康

長野県に帰郷して、建築士会の活動から地域の建築に携わる方々に会い、勉強の機会を得ることもできました。活動を展開している会の皆さまのおかげです。会が、これからは素晴らしい故郷の継続の一助となることを願います。

山口 正久

建築士会の入会と同じ時期に事務所協会にも入会して今は事務所協会佐久支部の支部長になってしまいました。建築士会と建築士事務所協会とは兄弟のような感じでございます。建築士会では一兵卒として参加していきたいと思っております。



■ 2011年度入会者

荒井 洋輔

私達が作るものについて度々考えます。建築物？そこで暮らす人の生活、地域の景観、経済、様々なものを背負う未来を感じ迷路に迷い込みます。生涯考えながら建築に携わるのだろうと思う。



■ 2013年度入会者

井野 勇志

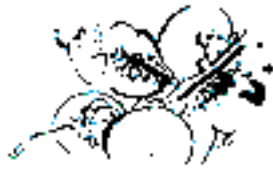
極寒の地域を持つ佐久地域では高い省エネ性能を持ちながら景観の中で美しく建築を佇ませる必要があります。建築士会の組織力には、高いレベルでこのような魅力ある建築を実現できる力があります。

田村 優美子

4年ほど前になりますが、木造塾受講をきっかけに建築士会佐久支部に入会させて頂きました。会に参加させて頂く道中、会員皆さんの熱い思いに触れまして、建築士の立場での社会貢献を…出来ることから、と心がけるようにしています。

堀内文雄

建築士会に入ってからすぐに委員会に入り、士会が主催する活動に参加しています。私もいろいろな団体に所属しておりますが、地元を良くしたいという思いと精力的な活動は群を抜いていると感じます。

**■2014年度入会者****岩下実**

皆さんこんにちは 国実 2 級建築設計事務所の岩下実と申します。60 歳を過ぎて引退の時期を模索し始めた頃合いに入会者の一言は結構な作業でした 初心に帰れと言うことでしょうか？諸般の事情を鑑みれば粉骨砕身いけるところまで行くか！の諦念の境地です。

上原啓二

佐久支部合併 30 周年おめでとうございます。輝かしいご発展を遂げられた皆様や先輩方の努力に敬意を表し、さらなる飛躍を心より期待します。元号も変わる節目の年。微力ながら支部発展に尽力させていただく所存です。

**■2015年度入会者****飯田篤**

平成 27 年から入らせていただきました。今まではお施主さんや職人さんやメーカーさん達と仕事上の話はほとんどでしたが入会後はたくさんの建築士の方々と話ができとても新鮮な感覚を覚えました。今後ともよろしくお願い致します。

武重直人

「まちづくり」、住民や行政・各種専門家が協働する現代のまちづくりでは職能としての建築士、地域の建築士が重要であると、責任と共に感じています。今後も建築士会の皆様と、街並・景観・文化の進展に貢献できるよう活動してゆきたいと思えます。

寺尾こころ

支部主催の研修旅行や建物見学に参加させていただくのがいつも楽しみです。写真ではなく実物の建築を体験できるのはもちろんですが、経験豊富な先輩方の感想や考察を聞くのも勉強になります。

新津加奈子

青年女性委員会の活動に参加してきました。地域実践活動を通して身近な地域でも知らなかったことの多さに驚き、建築士としての地域への携わり方など沢山のことを学ばせてもらっています。

山田まどか

御代田町への移住をきっかけに建築士会に入会してみたところ、地域の同業の方たちにお会いする機会が増え、仕事に関係があるようなないような地元の知恵などお聞きできることがありがたいです。

**■ 2016年度入会者****塩川直**

30周年おめでとうございます。建築に対して真摯に向き合っている佐久支部で活動させていただくことができ幸せです。佐久支部が積み上げてきた（いる）成果の欠片になれるよう精進します。

土屋将奈

佐久支部30周年、お祝い申し上げます。僅かな出席ではありますが、地域活動やアイデアコンペなど、大変有意義な経験をさせて頂きました。佐久支部の益々のご発展をお祈り申し上げます。

**■ 2017年度入会者****石山和恵**

他県出身者には建築士会での様々な出合いが大変有難いこととございます。現代書道の父・比田井天来先生が御生まれになった佐久市で実際の作品に触れる機会が得られるのも大変光栄なことと思います。

伊藤剛志

30周年 おめでとうございます。平成29年4月に入会させていただき、早一年以上が過ぎました。なかなか、参加、ご協力できずに申し訳ありません。ご迷惑おかけしますが、よろしく願いいたします。

今井直和

平成30年3月に長野県建築士会佐久支部へ入会させて頂きました。以前は、埼玉県建築士会にて活動をしていましたが実家のある長野で仕事をしたいと思うようになり埼玉より長野へ戻って来ました。現在は、南佐久内の建設会社に就職して、設計・申請手続・工事管理業務等を行っています。今は2級建築士ですが1級建築士になる事が夢であり目標なので今後、長野県建築士会にて活動させて頂きながら様々な事を勉強して、1級建築士になり、今まで以上に地元へ貢献出来る様に頑張っていきたい思います。この度は、30周年を迎えられる佐久支部へ入会させて頂きとても光栄です。今後とも末永くお願い申し上げます。

小林紀之

30周年おめでとうございます。イベントなど参加できませんが今後の発展を期待します。

羽柴遼

建築士会に入会し、会員の皆様のエネルギーな活動に仕事や私生活においても大きな刺激を与えて頂きました。地理的にも恵まれ、自然豊かな長野県に貢献できるよう日々努めてまいります。

賛助会員の紹介

2019年1月現在

	会社名	役職	代表者名	住所
1	(株)新津組	代表取締役社長	新津正勝	小海町大字小海4399-1
2	(株)タカサワマテリアル	代表取締役	小林正夫	佐久市取出町375-1
3	(株)ケンショウ	代表取締役	井出隆	小海町大字千代里3630-4
4	(株)竹花組	代表取締役社長	矢野健太郎	佐久市望月30-1
5	竹花工業(株)	代表取締役	唐澤正幸	小諸市南町2-6-10
6	YKKAP(株)信越統括支店 長野住宅建材支店小諸営業所	小諸営業所長	石川晃	東御市鞍掛446-1
7	畑八開発(株)	代表取締役	井出清人	佐久穂町大字畑329
8	(株)カネト	代表取締役	高見澤正孝	小海町大字千代里2959-2
9	(株)不動	代表取締役	志摩一雄	佐久市瀬戸553-1
10	池田建設(株)	代表取締役	池田正	佐久市横和274-1
11	(株)ダイキアクシス長野営業所	所長	井上正樹	佐久市田口5574
12	(株)木下組	代表取締役	依田幸光	佐久市中込308-5
13	TOTO(株)佐久平営業所	所長	園田茂晴	佐久市岩村田1787-1
14	木下建工(株)	代表取締役	木下修	佐久市臼田623-1
15	綿半ソリューションズ(株)	代表取締役社長	長野正典	長野市南長池236-1
16	(株)本久	取締役社長	加藤章	長野市桐原1丁目3番5号
17	ニチハ(株)長野営業所	所長	松山将人	長野市南千歳二丁目12番地1 長野セントラルビル10F
18	(株)司硝子	代表取締役社長	黛彰也	佐久市原269-4
19	(株)ミツルヤ製作所	代表取締役	三澤一成	松本市野溝木工1丁目7番14号
20	(株)信濃公害研究所	代表取締役	大島明美	立科町大字芦田1835-1
21	(株)角藤長野本部環境ソリューション室	取締役本部長	小林和人	長野市東鶴賀町60
22	三和シャッター工業(株) 長野営業所 軽井沢出張所	所長	亀井重孝	佐久市岩村田3629-1
23	高田塗装(株)	代表取締役社長	高田知行	佐久市取手町578-5
24				
25				

30周年記念式典

1. 日時 平成31年2月2日(土) 午後1時より
2. 場所 佐久一萬里温泉村ホール・センター
3. 内容

1) 第1部 式典

- ・開会の辞
- ・綱領朗読
- ・建築士の歌斉唱
- ・実行委員長挨拶
- ・支部長挨拶
- ・来賓祝辞
- ・来賓ご紹介
- ・祝電披露

2) 記念事業

- ・青年女性委員会

平成21年度～平成30年度の活動発表

- ・佐久地域建築文化賞受賞作品をふり返って

3) 第2部 記念講演会

- ・演題「不揃いの木を組む」
- ・講師：小川三夫氏 鶴工舎・棟梁



- ・お礼の言葉

4) 記念演奏会

- ・花さく太鼓

5) 閉会

- ・閉会の辞

6) 懇親会



30周年記念事業実行委員会

- 実行委員長 山口康憲
- 副委員長 菊池弘之
(式典・講演会・アトラクション 担当)
- 副委員長 星野武光
(文化賞・ウッドクラフト記念事業・記念冊子 担当)
- *総務企画委員会 (式典・講演会・アトラクション 担当)
- *教育事業委員会 (文化賞 担当)
- *社会貢献委員会 (ウッドクラフト記念事業 担当)
- *情報広報委員会 (記念冊子 担当)
- *青年女性委員会 (記念冊子 担当)
- *交流委員会 (式典・講演会・アトラクション 担当)

**** 編集後記 ****

この10年間は、特に佐久支部の青年女性委員会が活躍した10年間だったと思います。記念冊子の内容も、青年女性委員会に関する事がメインとなっています。

創立30周年記念冊子編集作業(2009年～2018年の10年間)には、各原稿作成者・各担当委員の努力と協力に支えられて発刊を迎える事が出来ました。協力して下さいた皆さんに感謝いたします。

佐久支部会報ちくまは、更に充実した読みやすい誌面を目指します。

今後の会報ちくまの原稿作成にもご指導ご協力をお願い致します。

情報広報委員長 山浦孝志

会報『ちくま』第60号 2019/2

発行者：(一社)長野県建築士会 佐久支部

情報広報委員会

事務局：〒385-8533 佐久市跡部 65-1

佐久建設事務所内

TEL 0267-63-8080

FAX 0267-63-3330

E-mail: ken8080@seagreen.ocn.ne.jp

支部 HP <http://www.aba-saku.com/>

